

学術情報リテラシー教育担当者研修

2011/10/19 (阪大) 2011/11/30 (NII)

学術情報リテラシー教育の理論と動向 (骨子)

野末 俊比古

1. はじめに

- 実践に向けて
- 研修にあたって
- 「(学術) 情報リテラシー (教育)」観を

2. 学術情報リテラシー教育をどうとらえるか

- 情報リテラシーとは?
 - 情報を主体的に使いこなす能力
 - 問題解決能力の中核
 - 「図書館リテラシー」も (重要な) 要素
 - スキル (技能) に留まらない
 - 実態 (中身) はコミュニティに依存
- コミュニティと情報リテラシー (イメージ)
- 学術情報リテラシーと図書館

3. 学術情報リテラシー教育 (指導サービス) をどう進めるか

- 『ガイドライン』における実施の手順
- 理念 (Why の視点)
- 目標・内容 (What) / 方法 (How) / 体系化 (When, Where, Who)
 - 体系表 → シナリオ → 教材

- 入学（前）から卒業（後）まで
- 図書館以外も含めて（授業等との連携）
- 「印象づけ」も
- らせん型で
- 多様な方法・手法を利用
- スキルに留まらず
- 利用者からみた記述で

4. 利用者（ニーズ）をどうつかむか

- 利用者（ニーズ）の把握（Whom の視点）

5. 政策・実践・研究の動向を踏まえる

- （学術）情報リテラシー教育をめぐる政策
 - IT基本法（2001）
 - 学術審議会建議（1996）
 - 科学技術・学術審議会報告（2006）
 - 中央教育審議会答申（2008）
 - 科学技術・学術審議会まとめ（2010）
- （学術）情報リテラシー教育をめぐる実践
 - 初年次教育（導入教育）
 - 出張講座（出前講座）
 - PBL／チュートリアル
 - 教材・ツール開発（パスファインダなど）
 - 接続教育、FD・SD、第三者評価、...

6. おわりに

- 「学習支援」「教育支援」の意味
- （大学）図書館のアイデンティティと図書館員の専門性